

## 投稿

## 天文書と UFO 書の同居

佐藤 明達

天文書と UFO 書とは相性がいいと見え、図書館の「440 天文学・宇宙科学」の棚には両者が仲良く混じり合っている。2003 年 11 月 21 日、区立葛飾図書館で調べたら次の如くであった（UFO 関連書は▲印で示す）。

- ・「古天文学の散歩道」 斉藤国治
- ・「ブラックホール」 佐藤文隆、R. ルフィーニ
- ・「天文考古学入門」 桜井邦朋
- ▲「人類を創成した宇宙人」 ゼカリア・シッチン（竹内慧訳）
- ・「スカイ・ウォッチング事典」（朝日コスモス 2000～2005） 藤井旭他
- ▲「UFO 百科事典」 ジョン・スペンサー（志水一夫監修）
- ・「膨張宇宙とビッグバンの物理」 杉山直
- ・「スペースガイド 2003」 日本宇宙少年団編
- ・「輪廻する宇宙」 ポール・ハルパーン（江里口良治、水島信子訳）
- ・「年・月・日の天文学」 広瀬秀雄
- ▲「人はなぜエイリアン神話を求めるのか」 ジャック・ヴァレー（竹内慧訳）
- ・「宇宙人の条件」 平林久
- ・「宇宙への招待」 藤井旭
- ・「SF 天文学入門」（上、下） 福江純
- ・「電波の宇宙」 前田耕一郎
- ・「宇宙人としての生き方」 松井孝典
- ▲「宇宙人 UFO 大事典」 ジム・マース（柴田譲治訳）
- ・「宇宙科学入門」 宮本正太郎
- ・「子どもの疑問から始まる宇宙の謎解き」 三島勇、保坂直紀
- ・「ピンボケ望遠鏡がんばる」 森本雅樹
- ・「宇宙のからくり」 山田克哉

- ▲「第 5 種接近遭遇の謎」 失追純一
- ▲「天文学の新時代」 アラン・ライトマン
- ・「教養のための天文学講義」 米山忠興
- ・「星空を歩く」 渡部潤一
- ▲「UFO あなたは否定できるか」 ヘルムート・ラマー、オリヴァー・ジドラ（畔上司訳）
- ・「星と宇宙の通になる本」 渡部潤一、渡部好恵
- ・「星空マイコン教室」 神保徹
- ▲「NASA アポロ計画の巨大真相」 コンノケンイチ
- ▲「月の誘惑」 志賀勝
- ・「図説 月面ガイド」 白尾元理、佐藤昌三
- ▲「月の謎」（ムー謎シリーズ Vol. 1）
- ・「月の不可思議学」 竹内均
- ・「図解 月の神秘」 野本陽代
- ▲「月世界大全」 ダイアナ・ブルートン（鏡リュウジ訳）

.....

UFO 学 (UFOlogy) は科学とは似て非なるもの、つまり似非科学である。それは科学にとって必須の、論理的・実証的な研究方法を採らないことから明白である。それにも拘らず、科学書と UFO 書が図書館内で同居しているのは何故か。そこで図書館司書に尋ねたところ、日本図書館協会分類委員会編「日本十進分類法」新訂 9 版本表編 (1995) に準拠して並べてあるので、当館で独自に分類するわけには行かないとのことであった[1]。私は著書を出版したことはないが、もし私の著書の隣に UFO 書があったら甚だ不愉快に思うだろう。しかもこれは天文教育上も宜しくない。無垢な中・高校生が天文学を勉強す

る前に似非科学に汚染される恐れがあるからだ。

そこで私は UFO を削除するのではなく、分類項目 440 天文学・宇宙科学から切り離し、147 超心理学・心霊研究へ移すよう、日本図書館協会へ要望して欲しいと日本天文学会へお願いした[2]。学会理事会ではこの件を審議したが、UFO は未確認飛行物体で空飛ぶ円盤ではないから、この分類でも構わないという理事もいたという。そう言えば、天文学者の中（メンゼル、ハイネクなど）にも UFO を研究した人がある。しかし世間では UFO と言えば空飛ぶ円盤を連想するのが普通である。結局、日本天文学会は理事長の名で日本図書館協会分類委員会宛に 2001 年 12 月 17 日要望書を提出した[3]。9 カ月後の翌年 9 月 11 日、分類委員会委員長から届いた回答はおよそ次のようなものであった。

1. 分類項目、特に分類記号の変更・移動は、誤植又は特段の事情がなければ行なわない。ここに「特段の事情」とは、例えば新元号・世紀など、やむを得ない時代区分の追加・新設や独立国の誕生、国名変更に伴う訂正などである。

2. UFO は分類項目 147 超心理学・心霊研究に分類することも考えられる。ただし分類表は学問・知識体系に準拠するのが基本であるが、分類委員会としては、学術専門書だけでなく、荒唐無稽な際物図書も含めて現実に出版される、ものとしての図書の扱いに、対応しなければならぬツールであることから、最適とは言えぬが現時点ではやむを得ない措置であると考えます。

というわけで、今後の出版状況や UFO の実体や原因究明の状況を見極めながら、次版の改訂作業の中で検討していきたい。

こうして小・中・高校生の理科離れと似非

科学汚染への危惧は「特段の事情」とは見做されず、現状維持という結果になった。発行から 7 年を経て、2002 年 3 月から「日本十進分類法」新訂 9 版の改訂の準備が開始されたと聞くが、2004 年 2 月現在、第 10 版は未だに出版されていない。新訂 9 版の分類項目 147 超心理学・心霊研究の注記に「141/146 (心理学) に収められない心理的現象の研究およびその現象 (超常現象) についての著作は、ここに収める」と述べながら、超常現象である「未確認飛行物体 (UFO) は 440.9 を見よ」としている。UFO が天文学に属するなら、虹やオーロラも天文学に含めて然るべきだろう。

UFO を天文学に分類したのがそもそもの間違いである。分類委員会が過去の過ちを率直に認めようとしぬのはまことに遺憾である。天文教育普及研究会でも日本図書館協会に独自に要望書を出したり、ホームページに意見を載せたりして世論を喚起すべきではないだろうか。

(本稿は、2003 年 11 月 30 日川口市立科学館における天教研関東支部集会にてポスター発表した内容を、五島正光氏の慫慂により文章化したものである。)

#### 参考文献

- [1] 佐藤明達、1998、UFO は天文学の一分野か、第 12 回天文教育研究会年会集録
- [2] 月報だより、2001、天文月報、94、10、507
- [3] 月報だより、2002、天文月報、95、3、158

#### 図書館にて

生徒「あのう、天文学の本はどこにありますか？」

司書「UFO の棚を見てごらん。その間に挟まっているから。」